

科学教育研究協議会東京支部 2021 年度の活動

1. 東京支部の研究

科教協東京支部は、例年年3回の研究集会と支部運営委員会での学習を積み重ねながら、現行の教育課程の中で何が不十分か明確にし、それらをどのように作りかえていくか学習を積み重ねながら研究・運動をすすめてきましたが、2021年度はCOVID-19拡大の影響から通常の研究集会や運営委員会の開催を断念せざるを得ませんでした。

また、小学校低学年に生活科が導入され約30年経ち、小学校低学年でその後の自然科学教育を見通した実践や、低学年という発達段階で行うことが望ましい自然体験を行うことができない状況が続いています。その結果、小学校中高学年・中学・高校にしわ寄せが来て教育課程は汲々としています。このようななかで、自然科学の基礎的な内容を明らかにして広めていくという東京支部の研究・運動がますます求められています。

2. 支部主催の研究活動

東京支部の春・秋の研究集会は講師が初心者に教えるような「入門講座」としてではなく、参加者と一緒に学びあい、教育実践をつくり出すことを大切にしてきました。

COVID-19拡大の影響の中でもリモートによる活動を模索するなど、こうした動きをさらに進め、参加者とサークルとを結ぶために、メールを送ったり、HP・メールニュースや支部ニュースなどでサークル活動の様子や研究の内容がより広い人に届くように工夫してきました。

(1) 春の研究集会

春の研究集会は会場が確保できないことや感染の拡大が治まらないこともあり、4月11日（日）と18日（日）の2日間、10分科会を設定し、障害児者と自然科学教育分科会を除いてZoomを使ったリモートで行いました。126名の申し込み（初参加者33名）があり、メールニュースの新規希望者も39名ありました。

勉強になった、対面ほどではないにせよ議論ができてよかった、などの意見が寄せられた一方で、あまり頭に残らなかった、実験の見せ方などの工夫が必要、などの意見が寄せられました。

(2) 秋の研究集会

秋の研究集会も会場が確保できないことや感染の拡大が治まらないこともあり、10月17日（日）と24日（日）の2日間、10分科会を設定し、障害児者と自然科学教育分科会を除いてZoomを使ったリモートで行いました。80名の申し込み（初参加者19名）があり、メールニュースの新規希望者8名ありました。

概ね好意的な感想が多かったものの、ブレイクアウトルーム内の責任者がいると良い、2時5時の時間設定はよくなかった、退出が多くなったので13時半から最大16時ではどうか、など、改善のための意見も寄せられました。

(3) 冬の研究集会

冬の研究集会も例年通りの運営は難しいと判断し、2月20日（日）にZoomによる講演会を開催しました。メールニュースを通じて講演の演目や講演者の希望調査を行い、江守正多さん（国立環境研究所）に「地球温暖化についての最新情報と、次世代の子どもたちに伝えたいこと」と題した講演をお願いしました。35名の申し込み（初参加者1名）があり、メールニュースの新規希望者も7名ありました。講演は大変好評で、講演後の質疑応答も大いに盛り上がりました。

3. 東京のサークル

学校現場が年々多忙化しています。自主的で創造的な実践に取り組むことがますます困難になっている中で、各サークルは今年も工夫して活動を続け、支部活動を支えてきました。

- コロナ禍で例年通りの対面でのサークル開催が困難な中、あさくさばし理科サークル、足立理科サークル、ガリレオ工房、生物学教育研究サークル、中央沿線理科サークル、中学校理科サークル、東京物理サークル、などでは、ZOOMなどを利用してのリモート例会や会議などを実施しました。今まで参加されていた方が参加できない例があった半面、普段は参加することができない人が参加できた例が報告されました。
そんな中でも江戸川理科サークル、江東授業づくりサークル、南多摩理科サークル、中央沿線理科サークルでは対面での例会を再開したり、対面とリモートによるハイブリッド型の例会の開催を始めました。
- 昨年度も自然科学教育研究所では一日学習会を開催しましたが、支部やサークルが主催するフィールドワークの多くは、コロナ禍の影響で開催することができませんでした。そんな中、生物学教育研究サークル・板橋北中学校理科サークルは合同で芝公園でフィールドワークを実施しました。
- あさくさばし理科サークル、足立理科サークル、江戸川理科サークル、ガリレオ工房、江東授業づくりサークル、生物学教育研究サークル、中央沿線理科サークル、東京物理サークル、南多摩理科サークル、理科授業研究会など、HPや通信・はがき通信、電子メールやメーリングリスト、LINEなどを利用してサークルの様子や成果を広める活動をしているサークルがありました。尚、一部のサークルでは参加者や会場確保の問題から例会の維持が困難になっている現状もあります。
- 生物学教育研究サークルは中央沿線理科サークルと合同で、実践記録集BDを作成しました。
- 東京物理サークルでは以前に出版した「物理100時間」の韓国語版出版に向けて、検討を進めました。
- 会員が大学の授業を担当する機会が増えたことで、学生に直接呼びかけたりするなど、大学とのパイプもでき、新たにサークルに参加した学生もいました。今後とも教員養成現場とのパイプを大切にして参加者の増加に努めます。

このように、今年も各サークルは工夫して活動してきましたが、参加者がなかなか続けて参加できないという声もよく聞きます。特に中学、高校の若い教員のサークル定着率の低

さは大きな課題です。サークル活動の強化のために、より広い層から参加者を増やしつづつ、続かない理由を分析するなど、継続的に参加する仲間を増やすことが求められています。そのために科教協の存在意義や魅力をどう伝えていくか、考える必要があります。

また、コロナ禍収束後に、この間に会得したリモート例会の技術と対面の例会の良さを融合させた新しい例会の形を模索することが重要になります。

4. 情報の収集と発信

(1) 支部ニュースの発行・メールニュースの配信とMLの活用

当初の発行予定を柔軟に変更しつつ、方針どおり年間4回の季刊発行ができました。

支部ニュースには研究集会の感想や投稿原稿のほか、サークルで行われた『理科教室』を読んで」の原稿や、研究集会の案内、各サークルの活動の様子など情報の発信に努めました。

Zoomによる研究集会のたびに確実に読者が増えています。これまで以上にサークル例会や研究集会の案内や報告などを充実させる意味が増しています。

(2) HPの充実

2021年夏に支部HPを全面的にリニューアルして毎回の研究集会の感想を掲載したり、各サークルの連絡先がわかるように工夫しました。

5. そのほかの支部活動

(1) 東京支部運営委員会の活動

年間3回の支部運営委員会をZOOMで開催し、研究集会に向けての話し合いや準備の検討などを行いました。

今後は事務局の強化とともに、運営委員会の強化も大きな課題です。

(2) 新学習指導要領に関する学習

運営委員会の学習会や研究集会、各サークルの報告の中で新しい学習指導要領を批判的に検討し、それを乗り越えるプランや実践を提案し議論しました。

(3) その他の活動

事務局内のMLを活用し情報の共有を行い、事務局会議は年間で14回Zoomを利用して行いました。

例年行っていた支部総会は5月16日(日)に、以下の日程で事務局会議をそれぞれZoomで行い支部運営のための話し合いを行いました。

また、支部運営委員会を6月27日、8月9日、1月29日にZOOMで行いました。

2022年度も今までの成果を活かしながら、厳しい職場環境の中でがんばっている仲間を元気づけられるような研究・運動を進めます。